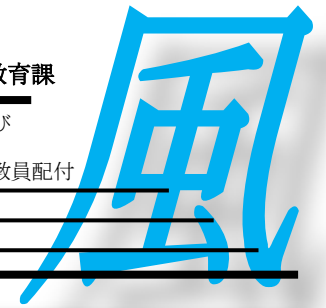


# English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配付

英語教育の



## 1 「2019年度ふくしま小学校外国語教育推進プラン」～小学校移行期間最終年度～

本日、「2019年度ふくしま小学校外国語教育推進プラン」をお示いたしました。2019年度は、小学校における学習指導要領（平成29年告示）移行期間の最終年度となります。各小学校の教育課程編成及び授業づくり等において、十分な準備をした上で、2020年度からの全面実施を迎えることができるようにしたいものです。

2019年度 ふくしま小学校外国語教育推進プラン

2020年度からの新学習指導要領の全面実施（小学校）を見据え、小学校外国語教育の早期化・教科化に対応するために、「人事・組織関係」「資料関係」「研修関係」「実践関係」の4つの観点から、各小学校及び市町村教育委員会を支援する具体的な方策を講じ、ふくしまの小学校外国語教育を推進する。

**小学校における「質の高い授業」の実施により、外国語教育の充実を図ります。**

県教育委員会は、小学校における新たな外国語教育の円滑な導入と小・中接続などを踏まえ、移行期間からの「教科担任制」を推奨するとともに、研修の充実や分かりやすい情報提供に努めるなど、児童が主体的にコミュニケーションに取り組む「質の高い授業」の実現を支援します。

移行期間：2018～2019年度（小学校）  
 2018年度 3～4年生15時間 / 5～6年生50時間  
 2019年度 3～4年生35時間 / 5～6年生70時間（外国語科）

2020年度（小学校）  
 3～4年生35時間 / 5～6年生70時間（外国語科）

学校  
 各教育事務所  
 義務教育課  
 高校教員

人事・組織関係：採用や人事配置を工夫します。  
 研修関係：研修内容を充実させます。  
 実践関係：授業づくりを支えます。  
 資料関係：タイムリーな情報提供に努めます。  
 情報提供を充実させます。  
 授業の充実を支援します。

2019年度 ふくしま小学校外国語教育推進プラン～具体的な内容～

2019年3月 福島県教育委員会

人事・組織関係：採用や人事配置を工夫します。

① 小学校英語教育の充実に対応する専門人材の教員定数確保（次期研修）  
 文部科学省の追加措置を活用し、県内各地区に英語専科教員を配置します。

② 推進リーダーの育成の取組  
 ふくしま外国語教育推進リーダー（専科教員）は授業公開等を通して、英語教育推進リーダー（中央研修）は小学校外国語活動中核研修（義務教育課）を通して、授業改善の成果を普及させます。

③ 2020年度以降も小学校教員を積極的採用  
 外国語（英語）免許状取得者及び英語資格取得者の積極的な採用に努めます。最終的には正式採用試験等で行います。

④ 大学の連携  
 外国語（英語）教育に関して、英語資格取得の推奨や授業づくりについて、大学との連携を推進します。

研修関係：研修内容を充実させます。

① 小学校英語スタートアップセミナー（義務教育課）  
 2020年度からの小学校外国語教育における早期化及び教科化を見据え、模範授業を実施し具体的な指導方法について研究協議を深めるなど、新学習指導要領における在り方に関する実践的な研修を実施します。

② AI Tの指導力等向上研修（高校教員・義務教育課）  
 効果的なT Tの在り方実践について学ぶため、新学習指導要領や新教材についてのワークショップを取り入れ、研修を充実させます。

③ 「基本研修」及び「小学校外国語活動・外国語科研修（研修センター）」  
 担任者研修及び経験者研修等の基本研修において、小学校外国語教育についての講演を行い、授業力の向上を図ります。

④ 専門研修「小学校外国語活動・外国語科研修」において、新教材を活用し、習熟度を高めて授業づくりについての研修を充実させます。

⑤ 小学校の先生方の声に対応  
 昨年度同様、各種研修会でのアンケートや先生方の声に柔軟に対応し、授業改善及び研修会等に生かします。

資料関係：タイムリーな情報提供に努めます。

① 外国語教育だより「English Wind」等を通じて、  
 県内外の先進校事例に関する情報提供に努め、2020年度の全面実施を見据え、各小学校で適切な準備ができるよう支援します。

② 県内外の先進校事例に関する情報提供に努め、各小学校で指導方法や授業内容を改善できるような支援を行います。

③ 研修（CAN-DOリスト）を各校に配布し、各校で実践できるように努めます。

④ 指導法の工夫・改善に関する情報提供に努め、各小学校で文部科学省から示された新教材を活用できるように支援します。

⑤ 小学校の先生方の声に対応し、指導方法等に関する情報提供に努め、授業改善を支援します。

⑥ 外国語教育の推進を、  
 文部科学省の「英語教育推進プラン」を活用し、小・中・高7年層を見通した一貫した授業改善の推進を実現させます。

実践関係：授業づくりを支えます。

① 英語バイオニア校（義務教育課）  
 英語バイオニア校への訪問や実践及び研修への支援を通して、授業づくりを支援します。

② 英語バイオニア校（義務教育課）等での教科担任制の推進  
 実践プロフェッショナル研修において、教科担任制を推進します。

③ グローバル人材を育成する英語教育推進リーダーが派遣される学校  
 実践プロフェッショナル研修において、英語専科教員の受入れを一部補助するとともに受入れを推進し、自身の英語力の客観的把握を行い、授業力向上に努めます。

④ 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業（文部科学省）  
 北米地区に赴き、小・中・高の接続を推進します。

2019年度、県教育委員会は、「小学校英語スタートアップセミナー」を立ち上げ、具体的な授業づくりを通して研修を深めるとともに、外国語教育の手引きを作成及び配布し、先生方の授業づくりのための更なる支援を推進します。

なお、具体的な説明を加えた別紙「2019年度ふくしま小学校外国語教育推進プラン～具体的な内容～」も、併せてお読みいただき、より理解を深めていただければと思います。

### 要となる中学校の先生方へ：小中連携による英語教育推進に向けて

中学校においては学習指導要領（平成29年告示）の移行期間は2018～2020年度となっており、翌2021年度から全面実施となります。中学校の英語担当の先生方におかれましては、自校の教育課程編成及び授業づくり等の準備はもちろんのこと、同じ中学校区の各小学校との連携を密にするとともに、英語教育の専門家として、各小学校の英語教育に関するアドバイスや支援等にもご協力をお願いいたします。

- 例えば、以下のような項目を確認しておくことも大切です。
- ① 同学区の各小学校では、**英語指導者は、どの先生ですか？** 学級担任ですか？ 専科教員ですか？
  - ② 同じく、**移行期間の授業時数は何時間ですか？** 中学年15時間？35時間？高学年50時間？70時間？
  - ③ 同じく、**どのような教材が使用されていますか？** 文部科学省配布教材ですか？独自教材ですか？
  - ④ 同じく、**先生方は、どんなことに困っていますか？** 教室英語？指導方法？指導内容？
- 早期化・教科化される小学校と、高度化・多様化される高等学校をつなぐという**重要な役割を、中学校の英語担当の先生方が担っていると言っても過言ではありません。**その専門性を発揮し、英語教育の「要」としての活躍を期待しています。

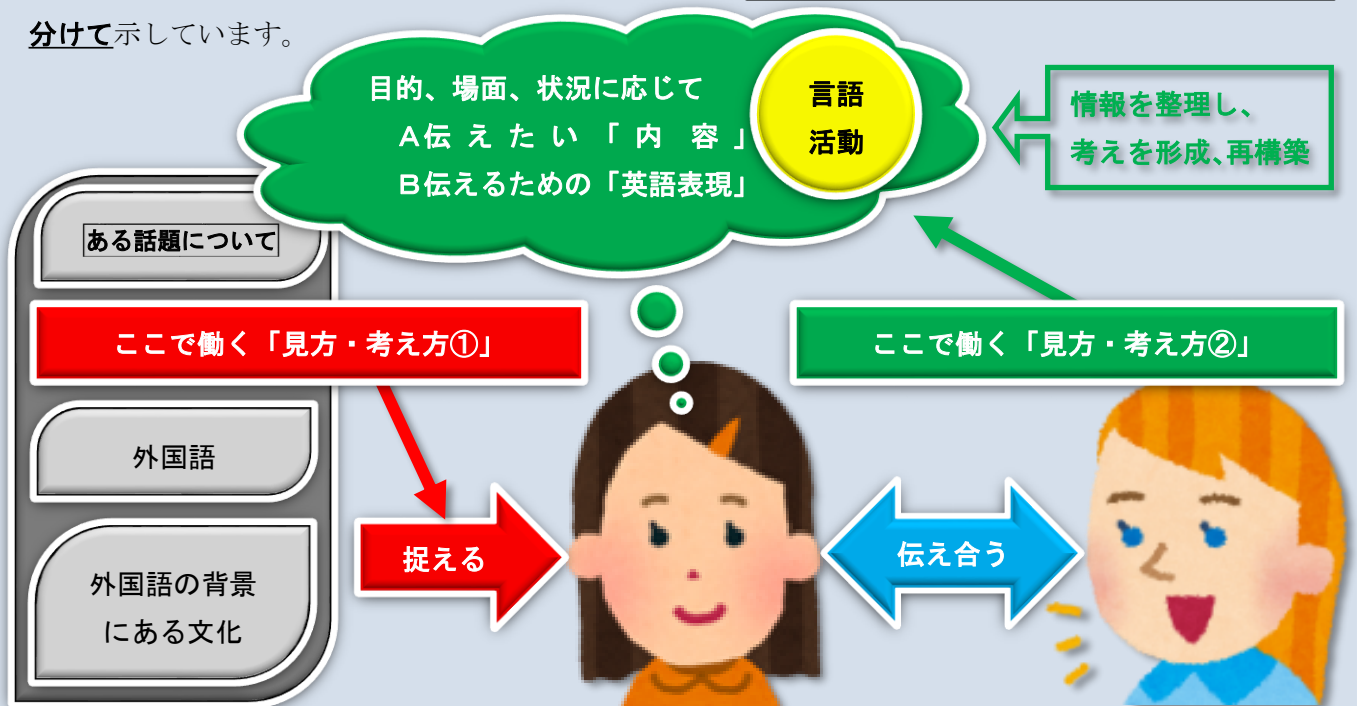
## ● 「見方・考え方」って何だろう？

- ・ 学習指導要領（平成29年告示）の外国語教育では、「見方・考え方」を以下のように定義します。
  - ・ 正式な表記は、「**外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方**」となります
  - ・ 外国語によるコミュニケーションの中で、**どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか**という、**物事を捉える視点や考え方**のことです。
- ・ 具体的な定義は、「**外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること**」です。
- ・ 「見方・考え方」を確かで豊かなものとすることは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながります。**教科等の特性に応じた「見方・考え方」が授業改善の鍵**なのです。

**ポイント①「見方・考え方」は物事を捉える視点や考え方であり授業改善の鍵**

## ● 具体的には、言語活動の中では、どのようなイメージだろう？

- ・ 以下のイメージ図（文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 及び 教育課程課 教科調査官 山田 誠志 氏の図を参考に義務教育課で作成）では、**便宜上、「見方・考え方」を、①と②の2つに分けて示しています。**



- ・ 例えば「**見方・考え方①**」は、「『食事場所を紹介してほしい』って言っているんだ…」「今、日本は冬だけど、オーストラリアは夏だから…」「オージービーフが好きだから、和牛も好きかな…」など。
- ・ 例えば「**見方・考え方②**」は、**A伝えたい「内容」**として「隣の新しくできたレストランを紹介して…、一緒に食べに行こうかな…」、**B伝えるための「英語表現」**として「『隣の』って英語で何だっけ?」「一緒に行こうと誘う時は、Can I ~かな、Could I ~かな、Let's ~かな?」など。
- ・ 特に、言語活動を通して資質・能力を育成する際、「**見方・考え方②**」において、**B伝えるための「英語表現」**を児童・生徒自身に考えさせることが大切です。事前に教え過ぎてしまってはいませんか？

**ポイント②目的、場面、状況に応じて児童・生徒に自分で英語表現を考えさせる**